

国土交通省近畿地方整備局
資 料 配 布

配 布	平成26年12月11日（木）
日 時	15時00分

件 名	「大阪湾港湾の基本構想」第2回懇談会の議事概要
-----	-------------------------

概 要	<p>平成26年12月9日に開催した「大阪湾港湾の基本構想」第2回懇談会の議事概要を配布いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「大阪湾港湾の基本構想」第2回懇談会 ・ 平成26年12月9日（火） 15:00～17:00 ・ 神戸地方合同庁舎1階第4会議室 ・ 出席者及び主な意見は、別紙のとおりです。
-----	---

取り扱い	_____
------	-------

配付場所	近畿建設記者クラブ 神戸海運記者クラブ 大手前記者クラブ 神戸民放記者クラブ みなと記者クラブ
------	--

問合せ先	国土交通省 近畿地方整備局 港湾空港部 港湾計画課 課長 島村 博 課長補佐 石田 博 TEL (078) 391-8361
------	---

(別紙)

「大阪湾港湾の基本構想」第2回懇談会の開催について

【日時・場所】

平成26年12月9日(火) 15:00~17:00

神戸地方合同庁舎 1階 第4会議室

【委員及び出席者名簿】

	所 属	委 員	出 席 者	
学 識 経 験 者	大阪大学大学院教授	赤井 伸郎	出席	
	流通科学大学教授	今西 珠美	出席	
	一般社団法人京都経済同友会理事	上村 多恵子	出席	
	京都大学防災研究所教授	小野 憲司	出席	
	神戸大学名誉教授	◎黒田 勝彦	出席	
	神戸大学大学院教授	○竹林 幹雄	出席	
	大阪大学大学院教授	西田 修三	出席	
	京都大学経営管理大学院経営研究センター 特命教授 株式会社社会システム総合研究所 代表取締役	西田 純二	出席	
	京都大学大学院准教授	松島 格也	出席	
	流通科学大学教授	森 隆行	出席	
民 間 ・ 団 体	公益社団法人関西経済連合会	理事	阿部 孝次	代理 地域連携部長 神田 彰
	阪神国際港湾株式会社	専務執行役員	豊田 巖	出席
	大阪湾広域臨海環境整備 センター	常務理事	池田 秀文	出席
港 湾 管 理 者	大阪府	港湾局長	井上 博睦	出席
	兵庫県	県土整備部長	田中 稔	代理 港湾課主幹 菅野 長久
	大阪市	港湾局長	徳平 隆之	出席
	神戸市	みなと総局長	吉井 真	代理 技術担当部長 田中 誠夫
国 土 交 通 省	近畿運輸局	海事振興部長	前川 一郎	出席
	神戸運輸監理部	海事振興部長	村松 智司	出席
	近畿地方整備局	副局長	池田 薫	出席
		港湾空港部長	成瀬 英治	出席
		神戸港湾事務所長	佐藤 敬	出席
大阪港湾・空港整備事務所長		中本 隆	出席	

(敬称略) ◎座長、○座長代理

【議事次第】

- (1) 大阪湾港湾に求められる役割と方向性のとりまとめについて
- (2) 大阪湾港湾に必要な機能と機能に応じて継続的・具体的に推進すべき取組について

【取組に関する主な発言】

- ・基本構想は、共通概念の形成が目的であり、大阪湾港湾の将来を夢見ても実現の可能性が低いものも含め、あるべき姿を書き込んで行くのがよい。
- ・取り組みの実現には、産業、道路、空港、観光部局等との調整が必要と考えるし、その計画や動きを捉まえる連携を図ることが良いのではないかと思う。
- ・「スマートベイ」について更なる議論が必要。

- ・船舶の大型化に対応するだけでなく、ターミナルの奥行やレイアウト、ゲート機能等今の施設を高機能にしていくことが重要。
- ・マルチモーダルの進展を踏まえ、海陸の一貫性や、連続性が港からみるとこうなるといふ、提案が欲しい。輸出だけでなく、これからは輸入にも着目した方がよい。
- ・クルーズ船の大型化に対応した施設は、分散型より集約型の方が良いのではないか。

- ・臨海部と内陸の産業、流通機能との連携も重要ではないか。

- ・古い港湾施設や土地を活用して、再開発を進めていくには利用の転換という視点が必要。産業の発展のためには、開発空間の留保も必要。

- ・ICTが進歩して使いやすい地域ほど、企業やお客が集まりコミュニケーションが出来る。そうした技術は都市と臨海部とをシームレスに繋ぐ役割を果たす。

- ・自然災害をトリガーにした災害（ナテック災害）への対応について盛り込んでどうか。南海トラフ地震が起こったときに大阪湾が、和歌山や四国を支援・救援の為にオフサイトセンターとしての役割を果たすのではないか。

- ・フェニックスは環境面だけでなく、災害廃棄物の受入等、防災面の機能を担うと考える。
- ・情勢の変化に対応して、持続可能な事業スキームの検討も重要。

- ・阪神国際港湾（株）の発足したことを踏まえ、一歩も二歩も大阪湾ポートオーソリティの考え方を進めて欲しい。
- ・ポートオーソリティの概念が銘々で違うので、概念を整理した上で中身の議論が必要である。

【次回開催予定】

平成27年3月3日（火） 15:00～17:00
神戸地方合同庁舎 1階 第4会議室